

公共交通への住民参画

おでかけ交通博 in あいづ

2025年10月10日

宇佐美誠史

岩手県立大学

研究・地域連携本部 副本部長

地域政策研究センター センター長

総合政策学部 教授

NPO法人 イーハトープ地域情報マネジメント 代表理事

会津若松とのかかわり始め

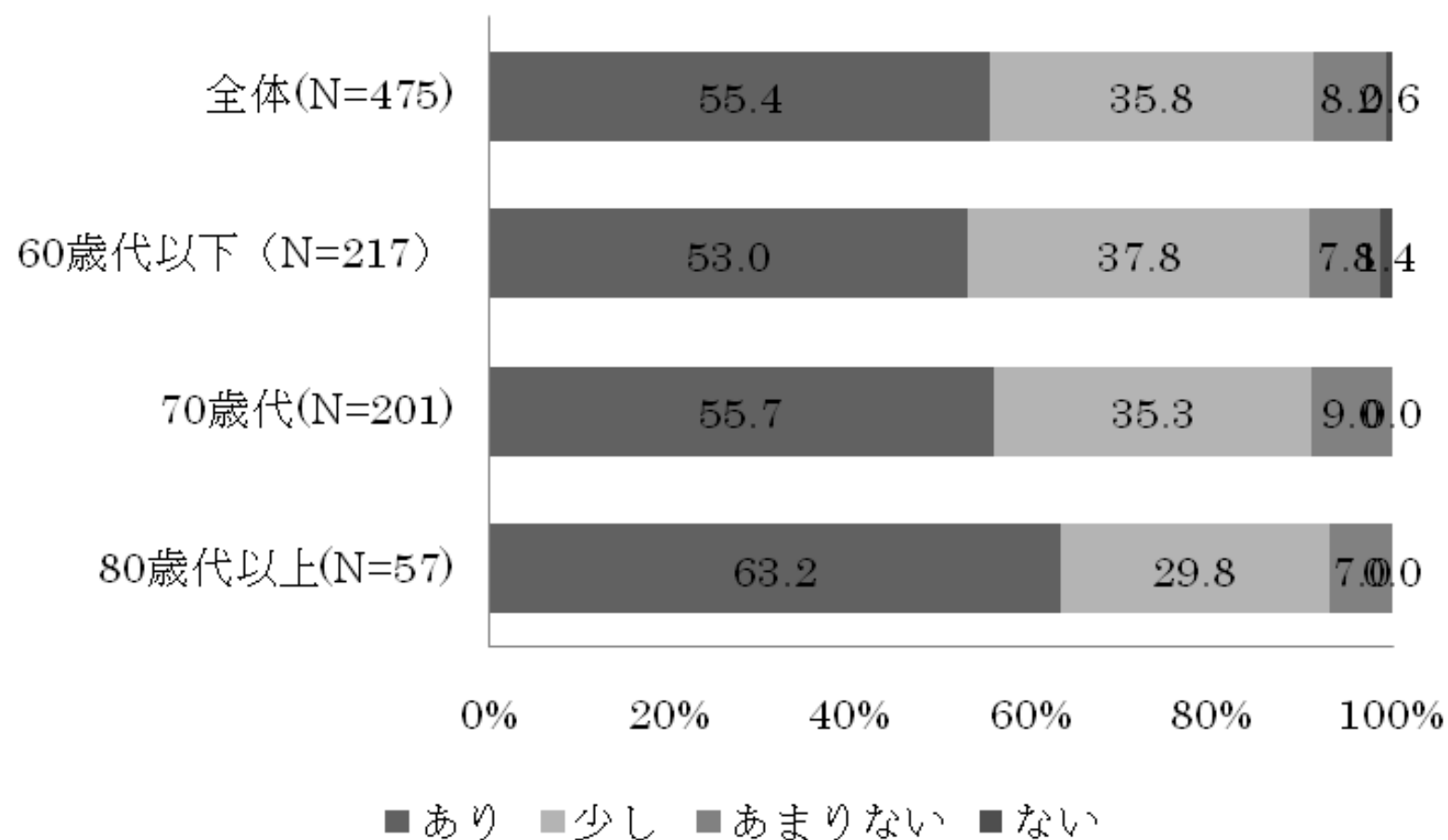
- 自治体向け公共交通相談窓口「バス110番」 (2006年開設)
- 電話がかかってきた (たぶん2008年)
- 公共交通の計画策定の相談



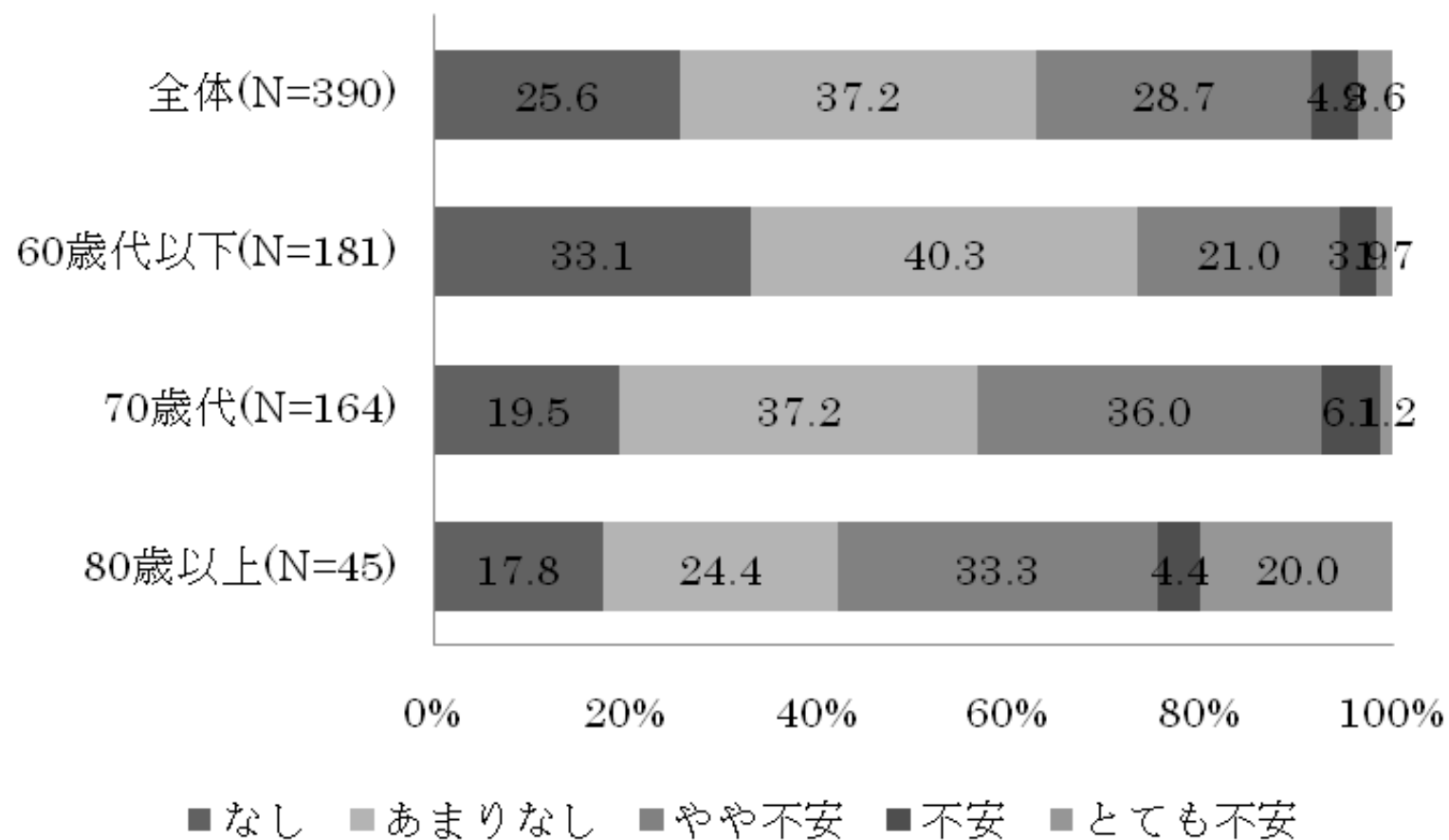
高齢運転者と同居家族の免許返納意識

- 盛岡市内の運転免許を保有する概ね65歳以上の高齢運転者とその同居家族を対象に調査票による意識調査
- 新聞の広告に入れて、郵送回収
- 2008年11月に盛岡市内で実施
- 有効回収数
高齢運転者486票、同居家族415票

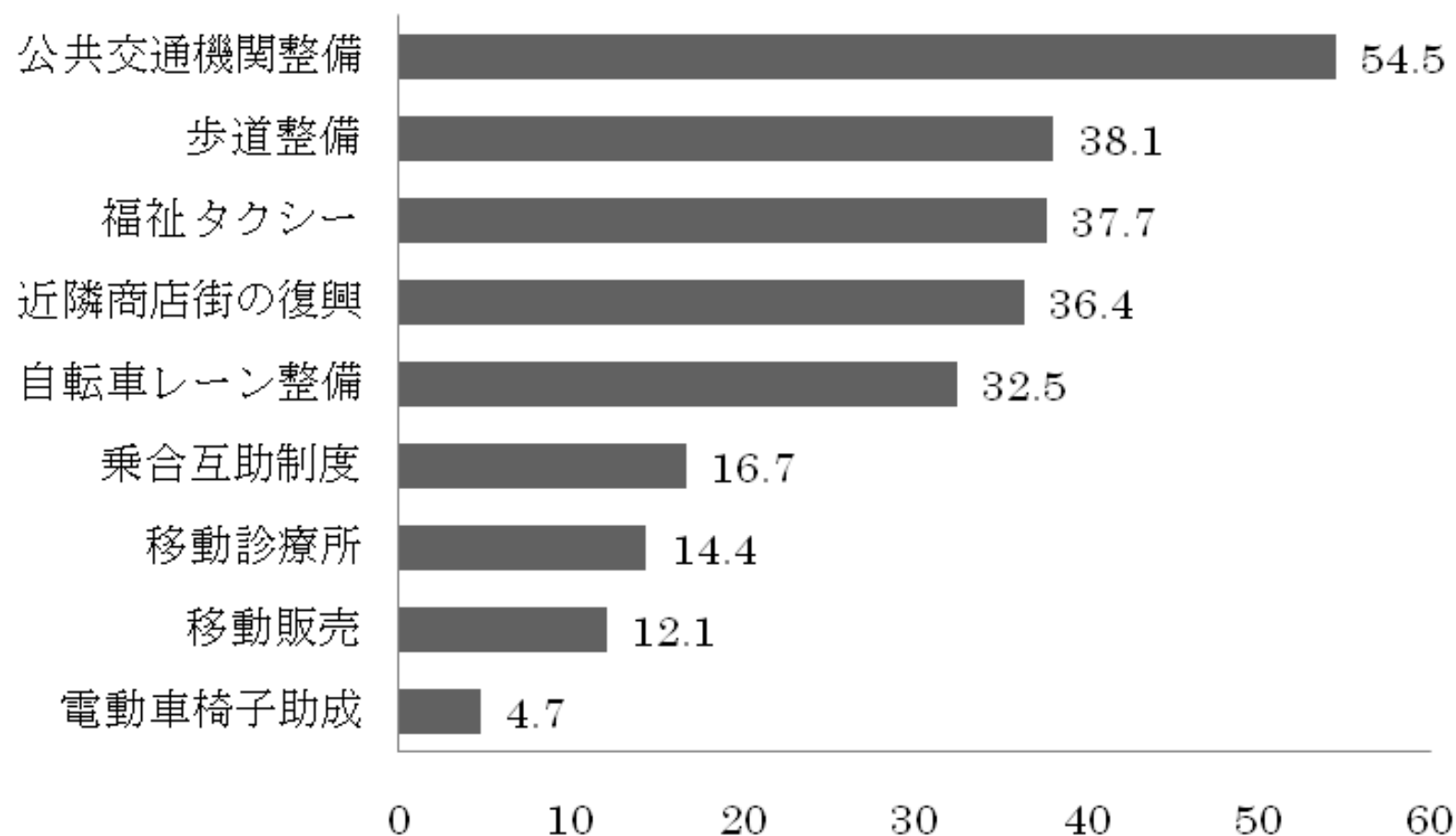
運転への自信



運転することへの家族の不安



運転しないための環境整備



高齢者の運転評価と運転免許返納意識

- 盛岡の運転免許センターに更新に来た70歳以上にアンケート
- 2015年8-9月の平日10日間
- 有効回収数
155票（男性111、女性44）

交通工学論文集 特集号B（実務論文）

元田 良孝, 宇佐美 誠史, 堀 沙恵「高齢者の運転評価と運転免許返納意識に関する研究」

2017 年 3 卷 2 号 p. B_1-B_5

苦手な運転行為

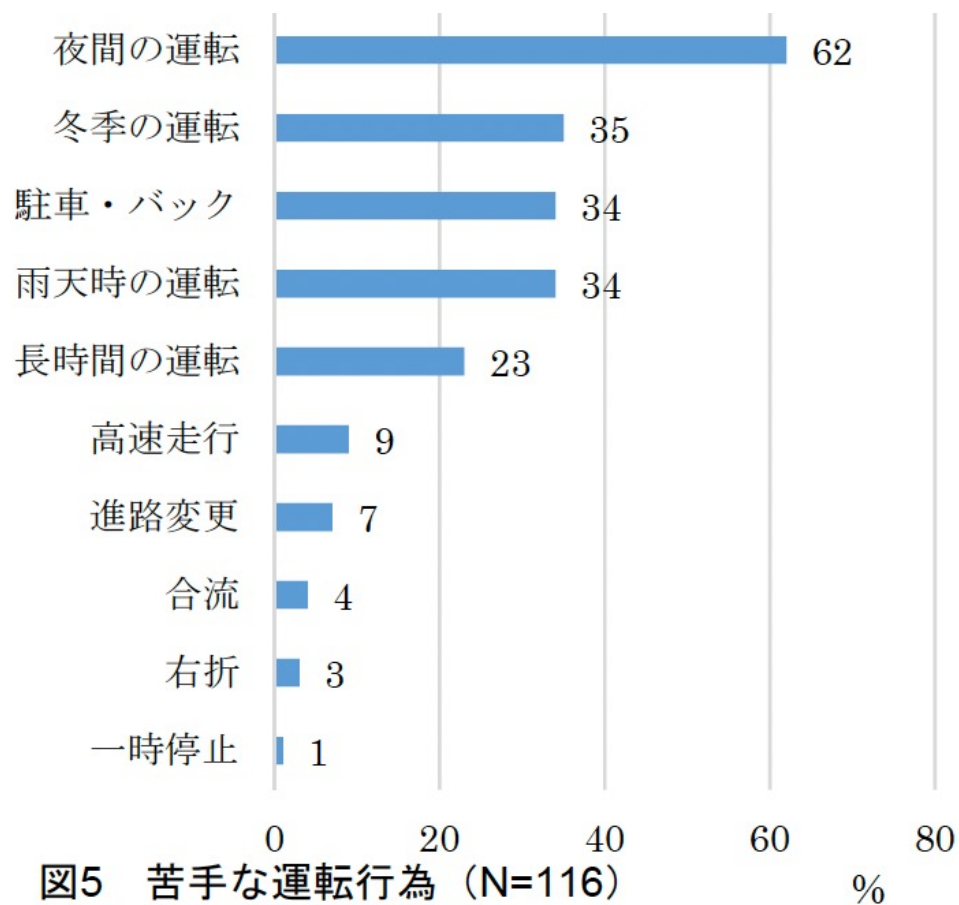


図5 苦手な運転行為 (N=116)
複数選択

苦手意識と 返納意思の有無

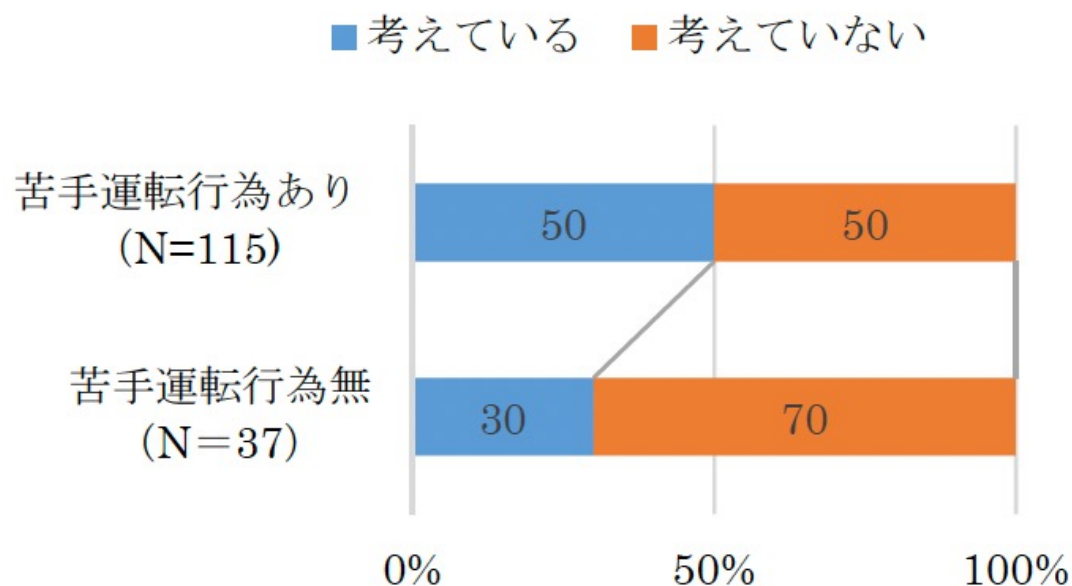


図6 運転免許返納意志と苦手運転行為の有無

公共交通サービスはお願いしても減る一方

- 公共交通ネットワーク

民間の路線 + 民間と行政のタッグの路線 + 行政の路線 α

- α

社協やNPO、市民などによる無償・有償の路線

⇒ 湊、金川町・田園町の取組

- 道路のように全て行政でできない

- α をどれだけ充実できるかが幸せな地域

会津若松市金川町・田園町の 住民コミュニティバスのスタート地点

- 2010年3月に会津若松市地域公共交通総合連携計画策定
- 住民運行サポート組織による市コミュニティバスの活性化
- 交通空白地域解消に向けた実証実験運行の実施・検証
- 最初に取り組んだのが金川町・田園町

最初はバス事業者と住民との話し合い

- 路線バスを走らせる場合は、民間のバス事業者は経営を第一にバス停やダイヤを決める。
- そこに、住民の意見は入らないことが多い
- そこを、行政が中に入り、住民組織（町内会）とバス事業者で話し合いをすることに。
- これまで、ずっと空白地区だっただけに、住民の盛り上がりはすごかった。
- 運行支援委員会をつくる。

需要調査を経て3路線を実験運行

- 2011年の7月から、翌年3月末までの予定で実験運行（費用はバス会社負担）
- しかし、走った途端、これまでの盛り上がりが消え、3路線合計で利用者の一日平均が4人という悲惨な状況。
- 実験期間を3か月延長し、2路線に。
- それでも、一日平均が8人という状態。
- 1年で実験運行を終了し検証

需要予測の甘さと責任を明確にして再出発

- 利用者データ分析、ヒアリング、新たにアンケートを実施し甘さのない需要予測。
- 運行支援委員会から運行協議会。
- 需要予測に基づいて、路線を1つに絞る。
- 民間の経営原則に基づくバス事業と今回のバスの違いを理解してもらう。
- 運行協議会（町内会）で一定程度の金銭的保証（飛行機でいう搭乗率保証）を定める
- 2014年の11月に新方式（今のさわやか号の原型）がスタート

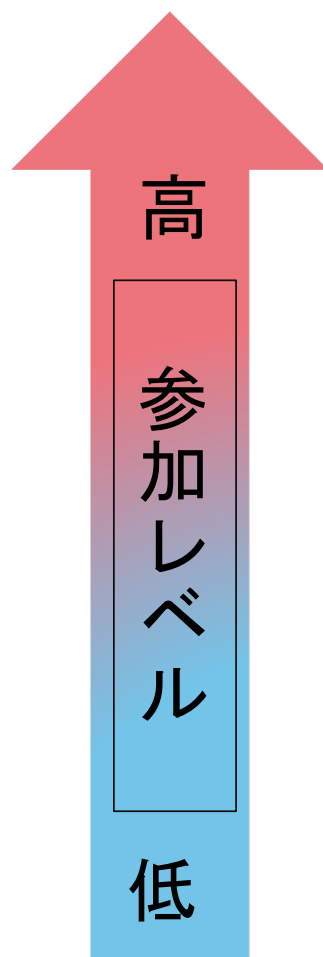
市と住民があきらめなかったことが今に繋がる

自分たちが主体になってからの取組

- 自分たちが楽しくお出かけできるきっかけづくり
- ランチ会、クリスマス企画、料理教室、見学、健康体操・・・
- 定例の会議における収支確認、議論
- 周年イベント（呼んでいただきありがとうございます）

バスのことをやっているけれど、地域を楽しく盛り上げることを考える
湊の取組からも、地域をみんなで支え合って盛り上げる内容がたくさん

みんなが主体の公共交通



- 運営組織に入って活動する
住民団体などが運営主体を組織、
自家用車を使用したボランティア輸送など
- 運行の費用を負担する
積極的な公共交通の利用、回数券購入など
- 検討の場に参加する
意見交換会への参加、利用促進など
- 計画に対して要望を伝える
従来の取り組み方

さいごに

- 楽しみながら、みんなでおでかけのことを考える
- 何か、ちょっとでも、やってみる
- それ自体が、地域を盛り上げる活動に
- 楽しくおでかけすることで、地域が盛り上がり、健康寿命が延びます
- さわやか号は会長が代替わりしましたが、次の世代への引き継ぎをしながら、時代の変化に応じた取組が続いてほしいです。
- 金川町・田園町・湊町のような住民主体の継続的な取組が、東北各地で増えていくことを期待しています。